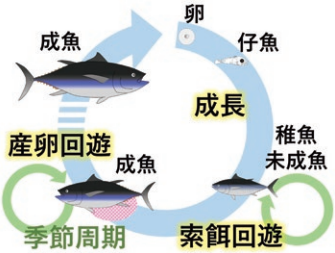
教授 下瀬　環

KEYWORD 魚類、生活史、水産資源、資源生態、資源利用

生物学の視点から資源利用のあり方を探る

水産生物の生活史を調べる

水産生物を資源として持続的に利用することを考える時、その生物の生態を知ることはとても重要です。特に、成長・寿命・繁殖特性などの生活史に関する情報は、水産物を漁獲する適切な時期や量を考える上で欠かせません。例えば、成長途中の若い魚を獲るよりも、ある程度大きくなった魚を獲る方が漁獲量の点で良さそうなことは容易に想像できますし、成熟して繁殖する親魚を適切な数だけ残しておくことも大切です。しかし、水産生物の生態は実に多様で、それぞれの対象種に適した資源利用の方法も複雑に異なることが予想されます。個々の水産生物に適した資源利用を考えるためには、生活史特性を含む生態の調査と情報の蓄積が必要になるのです。



クロマグロの生活史の模式図

漁業現場を知り、水産資源の適切な利用を考える

漁業現場でのマダイの水揚げ風景

水産資源の適切な利用を考えるには、利用する側、すなわち漁業者の活動を知ることも大切です。かつての漁業は、漁獲量・漁獲高を最大にするために効率を重視して発展してきましたが、資源量の減少や魚価の低迷が目立つようになってから、資源管理や適切な資源利用についても考える機会が多くなってきました。資源の持続的な利用や将来を見据えた利益の最大化を考える時、水産業の特性を広く深く知ることで、すべての利害関係者が納得できる資源管理が提案できるようになると思います。現実の資源管理はたいへん難しいものですが、生物と漁業を同時に知ることで、より適切な資源利用に近づくことができると信じて研究をおこなっています。

ひとこと

「興味を持ったことを調べてみたい」、「水産業に貢献したい」、「研究者として働きたい」など、学ぶ動機は様々ですが、それが明確で強いほど楽しい学生生活を送ることができると思います。